

## 6. 自然現象は天からの贈り物、賢く生かす

地球誕生から 40 数億年、その後さまざまな領域での変化、変質、進化が絶え間なく起こって今にいたっていることが知られています。そういう中で、人類が偶然にも生存できる環境が得られて、人類自体も大きく進化してきました。しかし、人類と自然環境は常に暖かな毛布でくるまれていたわけではありません。自然環境は大変動を伴って、地表の風景を変えてきました。それは、再現することができませんので、痕跡や現在の形態から演繹、引導することでその大変動の姿を想像しているわけです。つまり、いま見る自然現象の元となるところの地形や地質、地殻変動は地球全体のダイナミックスといわれるものの中に見るものであるということになります。それがわれわれ人間には大きな脅威になったり、恵みになったりしていることになります。自然災害におびえている人間は、まさにある意味でこのような環境に生きる生物としては、自然現象の中に生かされているということになります。したがって、人間はこのエネルギーを抑制したり抑止したりすることではいまのところ無力です。そうなれば、できることは恵みを享受し、怖いものは上手に回避することが得策であるということになります。人間は興味や欲がありますので、そのぎりぎりのところまで恵みの比率を挙げることをしています。何せ、これまでは拡大成長が進歩であると自認していたわけです。ところが、自然現象が人間活動とも関係していることが明らかになってくると、その結果としての自然災害の暴走が想定される事態にもなり、これまでの一方過ぎる過大な干渉をセーブして安全で安心な共生が可能な自然環境の健全な持続が望まれる状況になってきました。顕在化し始めてからでは遅いかもしれませんが、持続可能な環境への対応の修正に取り掛かることにしました。自然のサイクルは、敏感で、繊細で本当に難しく、風が吹けば桶屋が儲かるというようなもので、何がどう反応するのかが未解明なところにあり、人間の英知を超えているのだと思います。このような自然のサイクルの中で起きることが誘因となって、自然災害もおきるわけですが、これはある意味でわれわれの生活スタイルに関係しているということになります。そして、自然災害から、私たちの生活スタイルを何か修正することがあるかもしれません。つまり、自然災害には素因があって、災害になる理由があると思いますので、それに着目していくことが必要であると思います。何も目新しいことではなく、古来から大きな災害では、次の世代へ伝えるべく、さまざまな記録やモニュメント、地名などで残されています。われわれは、少々自信過剰になっていることもあって、これらのことへの関心を及ぼすことなく、成長拡大を続けてきたことになります。災害は必ず何かを教えているわけで、一過性のハード対応で済まさないで、そこになぜ起きたのかを理解して同じ被害を繰り返さないことではないでしょうか。